

生活

つぶやき「がんちゃん」の 知恵袋

Vol-43



■プロフィール
さいとう ひろかつ
齋藤廣勝

株式会社
トータルライフサポート代表取締役

- CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- 1級ファイナンシャルプランニング技能士
- 日本商工会議所 年金退職金等認定講師
- 住宅ローンアドバイザー



今月のテーマ

FPに相談すること…!?

「日本ファイナンシャルプランナーズ協会」が発足して25年、「ファイナンシャルプランニング技能士」が国家資格として誕生して10年になる。弁護士・税理士等と比較すると、その歴史は浅いが、ここまで来る「ファイナンシャルプランナー」という言葉自体は、多くの人に知られるようになってきたのだが、一頃は、FPというと「建築工法」と誤解されることもあったものだ。(今もあるかも…!)

この制度・資格は日本だけのものではなく、アメリカ・ヨーロッパを始め、アジア・オセアニアの地域においても導入されているが、「ファイナンシャルプランナー」(通称FP)は、具体的に何をしてくれるのかを知らない人も多いし、利用したことがあるという方はまだ少ないのが現状だ。

近年の低迷・混迷の経済環境化にあってする、給与所得、公的年金、健康保険制度などなど、個人を取り巻く環境は厳しさを増している。一方、生活費のコストはますます上がっている。こんな環境下では、将来の生活設計を長期の視点で考えなければ、破綻の可能性さえ孕んでいるといって良いだろう。不透明な環境・時期であるからこそ、少しでも早めの生活設計を立てなければならないが、何をどうしていくのか分からぬというのが現状ではないだろうか。

多くの人が、将来に不安を抱えているにも関わらず、成すすべも無く将来設計は手付かずの状況だ。そんなときこそ、「ファイナンシャルプランナー」の出番であるのだが、相談のアクションを起こすまでは至っていないようだ。なぜか…?多くの世帯が問題の所在には気付いているものの、悶々としているに違いないと思うのだが。どうやら、自身の家計の中身をさらけ出すことに、ためらいがあるようだ。家計の収支を見られることは、裸をさらけ出すに等しい恥ずかしさと、プライドが邪魔をしているのかもしれない。

しかし、体の健康診断と同様、恥ずかしいなどと言っている場合ではない。家計の健康が蝕まれて手遅れにならぬように、早目のチェックが必要となる。ためらわれる気持ちも分からぬわけではないが、「ファイナンシャルプランナー」であれば、高い倫理観のもと、みなさんと一緒に考えててくれるはずだ。相談した多くの方が、「もっと早く相談していれば…」と言っていることからも、FPとは、家計の総合病院と言えるのかもしれない。是非とも、相談する文化を育てたいものだ。



FPは具体的に何を?

ファイナンシャルプランナーには、お客様の生活設計に関わる幅広い知識が要求され、その称号は資格試験に合格したもののみに与えられる。国家資格名は、1級・2級・3級「ファイナンシャルプランニング技能士」。日本FP協会認定の資格名は、CFP®(上級資格)・AFPとなつており、次のような金融知識を身に付ければならない。

- ①ファイナンシャルプランニング総論
- ②金融資産運用設計
- ③不動産運用設計
- ④ライフルプランニングと資金計画
- ⑤リタイアメントプランニング
- ⑥リスク管理と保険
- ⑦タックスプランニング
- ⑧相続・事業承継

これらの知識を基に、お客様の生活設計を様々な角度から、総合的なプランニング・アドバイスを提供するのだが、その必要性と課題、及びFPに相談する効果などを、分野別に順番に紐解いてみよう。今月は金融資産運用設計だ。

保険と暮らしの相談センター



今月の無料相談会重点テーマ

自動車保険の内容チェック!!

～自動車保険を見直していますか?～

- ① 補償内容のチェック
- ② 運転される方のチェック
- ③ 各種割引・特約のチェック
- ④ 保険料の軽減対策

お気軽にご相談ください。



株式会社
トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間：9:30～19:00 ●定休日：水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL http://tls-akita.co.jp

詳細は
ホームページでも
ご覧いただけます。



●紳士服のコナカ

●エネオス

●すずきクリニック

●当店

●マクドナルド

●山王支店

●かんきょう

●洋服の青山

金融資産運用設計の必要性

長引く景気低迷の中で異常なほどの低金利が長期間に渡つて続いている。バブルと言われた時代には、1年物の定期預金でさえ8%ほどの利息が付いたものだ。ああ、懐かしいなあ…。

当時、「1億円の宝くじが当たつたら利息でめしが食える」と言つたものだ。1億円の8%で800万円なり。高給取りの水準だ。それがなんと、現在地元の地方銀行の1年物のスリバー定期の金利は0.025%、なんと321分の1の水準である。同じく1億円の宝くじを預金したとしても、25000円なり。めしが食えるどころかお小遣いの水準だ。預貯金等は、資産運用とは言えないどころか、殆ど無利息というに等しい。

しかば、資産運用とばかりに、株・投資信託・債権・外貨預金・FX等々で頑張つた方も少なくないはずだ。ところがどうかい、増やすどころかで減らしてしまった方も少なくないし、「元も子もない」状態に陥つての方さえいる。自己責任が問われる時代だけに、商品の仕組み・特性をよく理解した上でなければならないはずだが、勧められるがままに購入し、今になつて後悔されている方も多い。

また、近年に導入された新型企業年金である401K(確定拠出型年金)も、自身の判断で運用先を指定しなければならないが、当初の運用先の設定から、手付かずの状態で放置



金融資産運用設計の必要性

されているケースも大きな問題だ。このようないくつかの心当たりに、グサッと突き刺さった方が多いはずだ。

しかし、投資は存在するリスクの反面、大きなリターンも期待できる。預貯金での成果が期待出来ない中には、ことさら上手に利用したいものだ。

失敗しないためには、商品毎の仕組みや特性、リスクとリターンの関係、社会・経済情勢を分析し、個人の経験・レベルを踏まえた総合的な判断とリスクの軽減手法を必要となる。最終的には投資先などの判断は、もちろん自身でしなければならないが、それ至るまでのプロセスにおいて、知識の習得においては是非ともFPを利用してもらいたい。

金融資産の住み分け

皆さんは資産運用を単純に増やすことと考えてはいないだろうか? ファイナンシャルプランナーがお客様の相談に乗るということは、資産をライフプランの延長線上に置き、「目的毎の住み分け」をした上で、アドバイスをするということだ。

現金や預金だけでなく、土地や証券といった金融資産も含め、皆様が望まれるライフプランを現実にするための、目標利回りの実現とリスクの軽減を図り、総合的な金融資産運用設計にならなければならない。

来月号は…!

不動産の運用設計とファイナンシャルプランナーのかかわりについて解説する。



生活費や教育資金であれば日々に使うこと

